

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.115) 2020/4/20

目次

1. 第46回大会の開催延期に関する報告
2. 理事会報告
3. 定例研究会の報告(関東)
4. 定例研究会の報告(関西)
5. 看護・ケア研究部会報告
6. 編集委員会報告
7. ホームページ新規掲載情報の紹介
8. 編集後記

1. 第46回大会の開催延期に関する報告

5月16日(土)～17日(日)の第46回日本保健医療社会学会大会は、新型コロナウイルスの感染拡大により、9月5日(土)～6日(日)に開催を延期いたします。9月に大会を開催する会場は、大阪大学吹田キャンパスで変更ありません。

プログラムは現在予定されているものを可能な限りそのまま移動する予定です。基調講演、対談シンポジウム、シンポジウムについては、9月5日に予定通りの登壇者で実施いたします。

なお、5月の大会で発表を予定されている方で9月の大会には参加できない場合の取り扱いは、以下のようにいたします。

(1) 一般演題(口頭発表、ポスター発表)

一般演題の発表者が9月の大会に参加できない場合は、筆頭発表者の参加費の事前振込をもって、誌上発表したものと認めます。参加費の事前振込については、後日、大会ホームページ及び会員メーリングリストでご案内いたします。

(2) ラウンドテーブルディスカッション

9月の大会日程でラウンドテーブルディスカッションを予定通り開催することができるか、登壇者の変更はあるかなどにつきまして、学会の研究活動委員会から企画者の方に直接、お問い合わせし調整させていただきますので、今しばらくお待ちくださいますようお願いいたします。

第46回日本保健医療社会学会大会 大会長 山中 浩司
日本保健医療社会学会 学会長 朝倉 京子

2. 理事会報告(松繁理事)

2020年2月7日(金)に2019年度第4回理事会が開催されました。詳細は以下のとおりです。

日時：2020年2月7日（金）14：00～17：00

会場：(株)国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：朝倉会長、松繁理事、蘭理事、本郷理事、前田理事、戸ヶ里理事、武藤理事、清水理事

事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：中山理事、天田理事

1. 第46回大会の準備・進捗状況について（本郷理事）
本郷理事より発表申込状況について報告があった。また、シンポジウム、基調講演等の運営に関する検討事項について協議した。
2. 第45回大会会計報告について（戸ヶ里理事）
戸ヶ里理事より第45回大会の会計報告があった。会計報告の内容について確認するとともに、今後の役員交代時には、大会校の会計に関するやり取りがスムーズに行えるよう研究活動理事で引き継ぐこととした。
3. 2020年度大会時評議員会・総会の議題について（朝倉会長）
朝倉会長より次回の理事会（4月）にて総会議案書と評議員会資料を確認することが伝えられ、次回の理事会までに資料を用意することとなった。
4. 第48回、第49回の大会校（大会長）について（朝倉会長）
朝倉会長より第48回および第49回大会の大会校について打診中であることが伝えられた。
5. 規約の改正について（朝倉会長）
朝倉会長より理事選出選挙の被選挙権についての検討の提案があった。次回の評議員会でも意見聴取を行い、任期および被選挙権のあり方について検討していくこととなった。
6. 学術大会への財政支援に関する申し合わせについて（朝倉会長）
朝倉会長より、学会本体と大会校との間で取り交わす財政支援等に関する申し合わせについて提案され、検討を行った。
7. 編集委員会報告（戸ヶ里理事）
戸ヶ里理事より編集委員会規程細則類の改訂について提案され、検討を行った。次回の総会で報告および案内をしたのち、適用していく方向で進めていくこととなった。
8. 定例研究会の報告（関東）（前田理事）
前田理事より今後の関東定例研究会について、看護・ケア研究部会との共催を調整しているとの報告があった。
9. 定例研究会の報告（関西）（蘭理事）
蘭理事より2月22日に関西定例研究会を開催する予定であることが伝えられた。
10. 看護・ケア研究部会報告（清水理事）

清水理事より関東定例研究会との共催を調整し、決定次第会員向けにメール配信するとの報告があった。

11. 渉外・国際交流活動の報告 (武藤理事)

武藤理事よりアジアにおける国際学会の開催について提案があり、検討を行った。詳細については、国際交流委員会で検討し、次回の理事会にて審議することとした。

12. 2020年度決算案及び来年度予算案について (松繁理事)

松繁理事より2019年度決算案と2020年度予算案の説明があった。決算案について収入はほぼ例年通りであることが伝えられた。予算案については全体的に増税分を考慮していること、理事会開催を合計5回として計上しているとの説明があった。

13. ニューズレター115号の配信について (清水理事)

清水理事よりニューズレター115号を3月上旬に配信する予定であることが伝えられた。

14. 入退会者の承認 (松繁理事)

松繁理事より配布資料の通り、新入会者16名の承認依頼があり、承認された。

15. 医学教育のモデルコアカリキュラム改訂への学会の取り組み

医学教育コアカリキュラムに医療社会学が含められたことを踏まえ、プロジェクトチームを立ち上げてはどうかとの意見があり、次回の理事会で検討したうえで評議員会に意見聴取することとした。

16. その他 (清水理事)

清水理事より、学会HPにおける保健医療社会学を学べる研究者の情報サイトについて、今後情報提供のあった内容について掲載していくことが報告された。

以上

3. 定例研究会の報告 (関東) (中山理事)

2019年度第2回関東定例研究会を看護・ケア研究部会との共催により行う予定でしたが、新型コロナウイルス (COVID-2019) による感染の発生状況等を鑑み、3月の開催を中止することとしました。

4. 定例研究会の報告 (関西) (本郷理事)

1) 2019年度第2回関西定例研究会報告

日時: 2020年2月22日 (土) 14:00~17:15

場所: 神戸研究学園都市大学共同利用施設 UNITY (ユニティ)

講演者: 藤田 愛 (慢性疾患看護専門看護師/ヘルスケア・マネジメント修士・専門職)

医療法人社団慈恵会 北須磨訪問看護・リハビリセンター 所長

テーマ: 人生の最終段階における患者、家族、看護師の会話—そこにどのような意味が存在するのか事例を通して考える—

要旨

訪問看護のエキスパート藤田愛氏をお迎えして、「人生の最終段階」の在宅ケアについてお話をうかがった。患者本人、家族、そして医療者との間でどのようなやりとりがあるのか、そして、本人の意向を聞き取って在宅であることの強みを活かしながらどのように看護をしていくのか、そもそも、その前に、在宅看護を開始するまでに病院医師、病院看護師、家族をどのように説得するのかという大きな問題を解決していかねばならない。これらの問いについて、具体例を通して説明して下さった。氏は、これまでの「統計にもとづいて」（ここでいう「統計」とは経験知のことである）、ときに「選挙演説のように」訪問看護師からみた自身の意向を主張し、そして、患者本人の意思を尊重して自宅で最期を迎えるための支援を実行

しておられた。氏の経験は、著書『「家に帰りたい」「家で最期まで」をかなえる—看護の意味をさがして』（2018年、医学書院）にもあきらかにされているが、ライブで氏のことばを伺うと、現場におけるいくつもの不確定要素のピースが——発表スライドにジグソーパズルの絵が用いられていた——、氏が現場の各人に投げかける質問と対話から「在宅で最期を迎えるためのケア」という文脈に位置づけられ、そのための具体的な支援が動き始める状況がありありと見えてきた。

折からの新型コロナウイルス感染症問題の影響もあつてか、参加者は6名と少なかったが、非常に充実した会合で、研究会後の茶話会、懇親会でも引き続き活発な議論が交わされた。

5. 看護・ケア研究部会報告（清水理事）

1) 例会報告

日時：1月11日（土）13：30～16：00

場所：首都大学東京荒川キャンパス校舎棟364教室

発表者とテーマ：細野知子「糖尿病〈手帳〉をつける経験の現象学的研究」

報告：日本では、糖尿病治療でインスリン製剤などの自己注射をする患者たちは、健康保険適用下で血糖自己測定（Self-Monitoring of Blood Glucose: SMBG）を行い、「手帳」に記録して血糖コントロールするよう教育を受けている。糖尿病治療では血糖コントロールの悪化による合併症の進展を予防することが最重要課題であり、患者自身による「手帳」の活用が期待される一方で、「手帳」を継続して使用することが難しい患者が多いことも報告されている。発表者は、これまでのフィールドワークで、糖尿病患者たちが自分の「手帳」を眺めながらぼそっとつぶやく場面を見てきた。「手帳」に並ぶ自分の数値を見て生まれるつぶやきはその人の数値への意味づけを端的に表しており、そのつぶやきを通じて血糖値などの測定値とともに暮らす経験を開示する契機になると考

えた。

本部会では、糖尿病薬自己注射をしている研究参加者による「手帳」をつけるときに生じたつぶやきを書き留めた記録を現象学的に分析した内容を発表した。当日の参加者は5名であったが活発な議論がなされ、分析の方向性、記述の仕方、ケアへの活用可能性などが検討された。

(文責：三井さよ)

6. 学会誌査読システムの見直し等に関して (編集委員会：戸ヶ里理事)

現在の査読システムは、「日本保健医療社会学会編集委員会規定細則」およびホームページ等で公開している『保健医療社会学論集』投稿受付から掲載までの手順ならびにフローチャート、「保健医療社会学論集の査読について」のそれぞれの記載に基づいて行われています。各々施行・改訂以降7~10年程度が経過し、編集委員会事務局体制も変化し、実際の運用状況とこれらの記載内容との間に一部ずれが見られる部分が出てきています。また、査読プロセスや査読体制について会員の先生方から様々な意見が寄せられて参りました。

その一方で、事務局体制の充実・安定化が進むとともに、委員会における編集経験も蓄積され、より良い編集プロセスを運用できる体制が整ってまいりました。そこで今期編集委員会では、前期委員会からの引継ぎを受けて以降、議論を重ね、システムの修繕について模索してまいりました。その結果、細則類につき一部修正する必要があり、委員会内で修正案を整理いたしました。この細則類の修正案を先の理事会に提案したところ承認の運びとなりました。ついてはここに修正の内容についてご案内いたします。今回の修正では、主にこれまでご意見が多かった、査読割れの際に依頼する第三査読者の位置づけについて見直すこととなります。次に示す形になります。

1. これまでは第三査読を依頼し、第三査読者の判定が「大幅な修正が必要」以上の場合、それ以降は第三査読者1名による修正原稿の査読が行われてまいりました。今後は、「大幅な修正が必要」以上の判定をした第一あるいは第二査読者と、第三査読者の2名で修正原稿の査読を行うことにいたします。
2. これまでは第三査読を依頼する際には、第一、第二査読の結果を踏まえて総合的な判断をいただくようお願いしてまいりました。今後は第三査読者の先生ご自身の専門的な観点で査読をお願いする形にいたします。
3. これまでの規定では、査読割れの際には、機械的に第三査読を依頼するシステムとなっておりました。今後は編集委員会が査読者に相談など調整作業を行い、掲載不可の最終的判断を含めて可能な限り査読割れ状態の回避に努め、回避が難しい場合に第三査読を依頼する形にいたします。
4. これまでの規定では、一度掲載不可となった原稿は、「同一内容の論文の同一種類での再投稿を原則として受け付けない」と読める内容になっていました。今後は内容が改善された論文であれば、同一種類での再投稿は原則として妨げない形にいたします。

なお、以上の変更について、2020年9月締切り論文から適用をする方向で調整をしております。会員の先生方に置かれましては、引き続きよろしくご協力賜りたくお願い申し上げます。

また、昨今査読期限後も査読結果が返信されないケースが散見されております。返信が遅れますと投稿者に不利益となります。査読者の先生方に置かれましては、大変にお忙しいところ恐縮ですが、期限内でのご返信に協力をお願い申し上げます。

7. ホームページ新規掲載情報の紹介 (清水理事)

1) 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の掲載

本学会では会員からの自主的な提供によるデータに基づいた「保健医療社会学が学べる研究者」のリスト作成に取り組み、この度学会ホームページ上に掲載をはじめました。

周囲の皆様にご紹介いただくとともに、新たな情報提供についても引き続きご協力をお願いいたします。

<https://square.umin.ac.jp/medsocio/list-researcher.html>

2) 過去のニューズレターの掲載

この度、米林喜男名誉会員から資料のご提供をいただき、これまで欠落していた日本保健医療社会学会ニューズレターの第1号から第45号までと、第1回と第2回の保健・医療社会学アジア地域セミナーの案内・プログラムをホームページに掲載いたしました。これにより、学会設立30周年に向け整備を進めておりました保健・医療社会学研究会や日本保健医療社会学会の活動に関する資料をほぼ収集できたこととなります。

これまでに資料の提出などご協力をいただきました皆様に改めて感謝いたします。

<https://square.umin.ac.jp/medsocio/news.html>

8. 編集後記 (清水理事)

- ・ 日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページでも公開しています。メールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局まで御連絡ください。

<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当 (清水準一)
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5	アカデミーセンター
jshms-office@bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375